

# 写真家 遠藤 桂の足跡

会期：2018年3月7日(水)～6月11日(月)

会場：箱根写真美術館 1F展示室

時間：10:00-17:00 (最終入場)

休館日：毎週火曜日

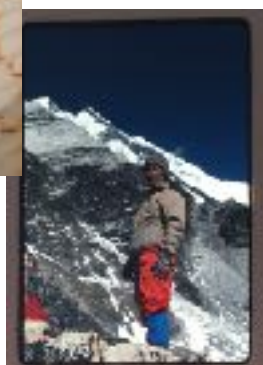
入館料：大人500円 小学生以下300円 未就学児童 無料



左より祖父・山田應水、母・恭子、次男(弟)、遠藤桂、父・遠藤貫一  
昭和36年元旦撮影



1969年、遠藤桂が初めて「撮影」した写真。修学旅行の日光東照宮



1980年、ネパール・ヒマラヤ冬季遠征した遠藤桂(当時21歳)

## 【展覧会概要】

1958年箱根に生まれた遠藤桂(えんどう かつら)が、写真家として生きてきた、その足跡を展示します。

祖父は風景写真家・山田應水(やまだ おうすい)。波乱万丈の人生でありながら、東京神田を拠点に風景写真を専門として日本の鉄道、観光事業、国立公園事業などに貢献してきた人物です。晩年、箱根小涌園から写真部設立の依頼を受け、娘夫婦(恭子、遠藤貫一)と共に箱根へ移住しました。その後、両親は小涌園の営業写真部として活動、祖父は箱根の山野草を愛し晩年も撮影を続けました。

三兄弟の長男として生まれた桂は、生まれながらに写真と深い関わりのある環境で育ちました。

幼い頃、祖父と両親と共に河口湖の花火大会へ訪れた桂は、夜空の大輪の花火に浮かび上がる富士山の姿を記憶しています。

箱根という自然の中が遊び場だった幼少時代、少年の憧れは「山」、そして「山の向こう側」へと向かい、世界一の山を目指し歩きはじめます。

登山家としての道、写真家としての道、分岐点にある出会いと別れ。

## ビスタリ、ビスタリ。夢に向かい、一步一步前に進みつづける。

本展では、今も写真家として生きる遠藤桂が、どのような経緯で現在に至ったのか、作品や資料からその足跡を辿ります。

また、山田應水の活躍した大正～昭和前期から、戦後高度成長期を迎えた箱根、バブル期を迎えた日本、そしてデジタル時代の現在、写真家の活動、写真の需要にも大きな変化が見られます。

一人の写真家の足跡を軸に、時代の変遷もご覧ください。

## 【会場／問

## 合せ先】

箱根写真美術館 神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300-432 電話 0460-82-2717 FAX: 0460-82-2717

URL <http://www.hmop.com> e-mail [info@hmop.com](mailto:info@hmop.com)

開館時間：10:00-17:00 (最終入場、閉館は17:30頃) 入館料：大人500円／小中学生300円※未就学児童無料

休館日：火曜休館

同時開催：遠藤桂「富士山」

**PRESS RELEASE**

Hakone museum of photography